



TITLE:

表紙・原稿作成要領・編集後記・
裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1999, 73(3):
581-581

ISSUE DATE:

1999-12-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/96749>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成11年12月20日発行(毎月1回20日発行)
物 性 研 究 第73巻 第3号

ISSN 0525-2997

vol.73 no.3

物性研究

1999 / 12

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行いません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 物性研究に掲載される論文の著作権は、物性研究刊行会に帰属することとします。
4. 本誌の論文を欧文の論文で引用される時には、Bussei Kenkyu (Kyoto) **73** (1999), 1. のように引用して下さい。

[原稿作成要領]

1. 原稿は、原則として日本語に限ります。
2. 投稿原稿は2部提出して下さい。但し、研究会報告は1部で結構です。
3. 別刷を希望の場合は、投稿の際に、50部以上10部単位で、注文部数・別刷送付先・請求先を明記の上、お申し込み下さい。別刷代金については、刊行会までお問い合わせ下さい。
4. ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。
 - 1) 用紙はA4を縦に使用。(印刷はB5になります。縮小率86%)
 - 2) マージンは、上下各約3cm、左右各約2.5cm。1ページに本文34行、1行に全角文字で42字程度にして下さい。
 - 3) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、本文との間に受理日を入れるので、余白を少しあけて下さい。
 - 4) 図や表は、本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 5) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
5. 手書き原稿の場合の原稿作成要領については、刊行会までお問い合わせ下さい。
6. 研究会報告の作成要領については、物性研究ホームページをご覧ください。か、刊行会までお問い合わせ下さい。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学 湯川記念館内
物性研究刊行会

Tel. (075)722-3540, 753-7051

Fax. (075)722-6339

E-mail busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

URL <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~busseied/>

編集後記

国立大学の独立法人化が政府・政治家によって決定されたが、大学人として非常に疑問を感じる。政府が国民に公務員を減らすと約束し、できなければ政府がつぶれてしまうからやるのだという。大学にはいっぱい公務員がいるから独立法人にして公務員を減らせば良い、というのが政府の考えらしい。

そんな場当たり的なその場しのぎで本当に日本の将来が良くなるのであろうか。独立法人化の目的を、政府は効率の向上にあるという。資源のない日本がこれまで世界を相手にやってこれたのは、優秀な人材を育ててきた教育・研究のおかげであると思う。その最高学府たる大学を独立法人化して効率を上げようというのはどういうことであろう。効率よく教育を行うとはいったいどういうことなのであろう。できるだけ安く学生を教育しなさい、ということなのであろうか？ 教育に限らず研究においても、底辺の大きな、層の厚い体制であって初めて、よい研究が生まれてくると思うのだが、お金を取ってこれないものは研究するな、というような方式で営利目的の研究などでよい基礎研究ができるとはとうてい考えられない。しかも、上から管理され、自由を失ってしまったら、そんなところにいったいどのような独創性がうまれるというのだろう。学問・研究の自由が、これまで果たしてきた役割の大きさを全く無視している。

どうも、日本は、アメリカの後ばかり追っている感が強い。そんな日本政治がすごく心配になるのである。アメリカでは、現在、確かに役に立たない研究にはお金を出さない風潮があって、日本もそれをまねている。しかも、アメリカのまねをするにしても、その精神やそれを導入するための手続きなど、肝心の所は全く無視し、政治家にとって都合のいいところだけをまねてとってきている。そんな気がしてならない。

確かに、大学の改革は必要であろう。しかし、それは、政治家の気まぐれや人気取りの道具にされてすぐ改悪されてしまうような適当なやり方で良いはずはない。国家の一大事にもつながりうる大切なことをそんなに簡単にしかも勝手に変更して良いわけがない。今回の問題で、大学側にとって非常に大きな問題点は、世論が身方でないということだと聞く。確かに、大学でなにが行われているか、一般市民の方々にはわかりづらいであろう。大学側が、この点に関して、努力不足であったことは否めない。

しかし、だからといって、高等教育・研究をないがしろにして良い、または、都合の良いように勝手に変更して良いということにはならないだろう。それなら防衛予算なんて言うのはもっとさっさと切りつめられるべきだろう。弱くて切りやすいところを力の論理だけで切っていくというのはどう考えても良いことではない。これから先行き日本の将来が本当に心配である。ともかく、大学にとってもこれからが正念場であることはまちがいない。

(k y h v)

[物性研究]

編集長
関本 謙 (京大・基研)

編集委員
佐々木 豊 (京大・理・物理)
藤本 聡 (京大・理・物理)
水口 毅 (京大・理・物理)
山田 耕作 (京大・理・物理)
吉村 一良 (京大・理・化学)
早川 尚男 (京大・人環)
村瀬 雅俊 (京大・基研)
小嶋 泉 (京大・数研)

各地編集委員

津田 一郎 (北大・理・数学)
本堂 毅 (東北大・理・物理)
佐々 真一 (東大・教養・基礎科第一)
堀田 貴嗣 (東大・物性研)
出口 哲生 (お茶の水大・理・物理)
山田 鏑二 (信州大・理・物理)
平田 文男 (分子科学研)
吉岡 英生 (名大・理・物理)
池田 研介 (立命館大・理工・物理)
菊池 誠 (阪大・理・物理)
市岡 優典 (岡大・理・物理)
吉森 明 (九大・理・物理)

E-mail: busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~busseied/>

物 性 研 究 第73巻第3号 (平成11年12月号) 1999年12月20日発行

発行人	村 瀬 雅 俊	〒606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606-8225	京都市百万遍交差点上ル東側 TEL(075)721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

年額 19,200円

会員規定

個人会員

1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお振込み下さい。

年会費 9,600円

1st Volume (4月号～9月号)

2nd Volume (10月号～3月号)

振替用紙は毎年2月号にとじ込んであります。振替用紙が必要な場合は、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 京都 01010-6-5312

2. 送本中止の場合：

送本の中止は年度の切れ目しかできません。次の年度より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は自動的に継続されますのでご注意下さい。

3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、すぐにご連絡下さい。

4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく1年以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご注意下さい。

機関会員

1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費 19,200円**です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類（請求、見積、納品書）が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

2. 送本中止の場合：

送本の中止は年度の切れ目しかできません。次の年度より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は自動的に継続されますのでご注意下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に下記までご連絡下さい。

物 性 研 究 刊 行 会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

電話 (075)722-3540, 753-7051

FAX (075)722-6339

E-mail busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

物 性 研 究 73-3 (12月号) 目 次

○電磁気学確立期におけるマクスウェリアンの役割 —O. Lodge の業績を中心として—	岡本 正志.....	423
○光学応答からみた PbHPO_4 の強誘電構造相転移.....	貴田 徳明.....	477
○修士論文 (1998年度) 超音波による $\text{La}_{1-x}\text{Sr}_x\text{MnO}_3$ の四重極子効果の研究	間 広文.....	504
非一様温度系における運動論的熱力学.....	松尾 美希.....	557
○編集後記.....		581

物 性 研 究 73-3 (12月号) 目 次

○電磁気学確立期におけるマクスウェリアンの役割 —O. Lodge の業績を中心として—	岡本 正志.....	423
○光学応答からみた PbHPO_4 の強誘電構造相転移.....	貴田 徳明.....	477
○修士論文 (1998年度) 超音波による $\text{La}_{1-x}\text{Sr}_x\text{MnO}_3$ の四重極子効果の研究	間 広文.....	504
非一様温度系における運動論的熱力学.....	松尾 美希.....	557
○編集後記.....		581